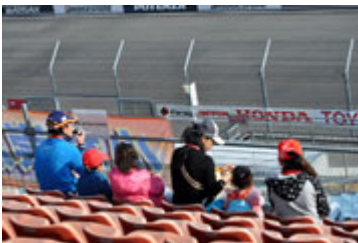


## 2. 念願の初ポールポジション獲得！



### ◆予選日



快晴に恵まれたツインリンクもてぎ。午前7時からの車検を終え、フリー走行開始の午前9時25分まで、少々時間があく。しかしメカニックはいつも通り慌ただしく動き回る。ドライバーの2人もサーキット入り。着替えを済ませピットに向かい、ほどなくしてフリー走行の時間を迎えた。

60分間のフリー走行がスタート。開始直後から、36号車 ロッテラー選手はトップタイムを連発する。37号車中嶋選手も3番手のポジションと好調。残り10分となった時点で、予選をシミュレートしたアタック合戦が繰り広げられ、順位は目まぐるしく変わる。最終的に、ロッテラー選手がトップタイム、中嶋選手は最後の最後でトラフィックにひっかかり10番手に終わったが、クルマの調子もよく誰も悲観する様子はなかった。フリー走行後、F1ドライバーのヴィタントニオ・リウッツィ選手がロッテラー選手を訪れるシーンもあった。中嶋選手は、相変わらず取材対応に追われていたが、それでも予選前のまだ静かな時間を過ごしていた。





ピットウォークを経て、午後 2 時ノックアウト予選開始。まず 20 分間の Q1 のセッションを戦う。この Q1 でのポジションが、決勝第一レースのグリッドとなる。ロッテラー選手、フリー走行に引き続きトップタイムをマークし好調。なんと、彼はユーズトタイヤを使用して、他のニュータイヤでのアタックを圧倒した。中嶋選手、7 番手スタートからじっくりアタック。残り 2 分となったところで、ロッテラー選手は、トップを他車に奪われたもの、ラストアタックで逆転、念願のポールポジションを獲得した。中嶋選手 14 番手まで下がったポジションをロッテラー選手の直後に挽回、自己ベストではあったが 3 番手でセッションを終えた。

午後 2 時 30 分、7 分間の Q2 のセッション開始された。ベースのセッティングは変えず挑む TOM'S の二台。ロッテラー選手はいちもくさんにピットロードに出た。アタックラップで、1 分 33 秒 010 (コースレコード) をマークしトップタイム、中嶋選手は残り 1 分で 2 番手につけ、Q3 進出を決めた。



午後 2 時 47 分より、7 分間の Q3 最後のセッションが始まった。ここでのポジションが、第二レースのグリッドとなる。好調なロッテラー選手はとどまることを知らない。今回も真っ先にピットロードに出ると、タイヤを温めたのち、1 分 32 秒 989 の脅威のタイムをマーク。再びコースレコードを塗り替えた。1 分 32 秒台に入れるドライバーは他になく、中嶋選手も 2 番手で食らいついたが、終わってみれば、2 戦ともポールポジションはロッテラー選手が獲得。2 ポイントをゲットした。





### ◆予選後

#### ロッセラー選手のコメント

「クルマの状態がとてもよくベースのセッティングをほとんど変更せずにセッションに臨んだ。Q1は、路面のコンディションが朝と変わっていたり、ターン3でミスをしたり、トラフィックに引っかかったりで、100%のアタックはできていない。しかしポールポジションを獲得できて、良い一日だったと思う。これまでポールポジション獲得することのできず、呪われているのかと思っていたが、今日は2つも得ることができた。みんなで一生懸命仕事して、いろんなコンビネーションが作用すれば獲得することができるんだなあと感じた。明日は、スタートをミスなく決めること。チャンピオンのことを考えずに、シーズン中も同じだが、いつも通りにベストを尽くす」

#### 中嶋選手のコメント

「ロッセラー選手とオリベイラ選手を追いかける形でスタートした予選だが、ユーストタイヤでいろいろ状況を確認し、ニュータイヤを投入するまでセットアップを試した。今日は朝から、トラフィックに引っかかることが多くかなり難しい予選でイライラもしたが、自分を見失うことなく、納得の行く走りはできたつもりだが、ロッセラーがやっぱり

## 2011 チャンピオンへの軌跡

速かった。最終戦で言うのもなんだが、だいぶロッテラーを捕まえられるところまで来たと思う。ロッテラーとは 2 点開いてしまったが、抜きづらいサーキットですので、前に出て勝つチャンスを得たい。明日の天気もどうなるかわからないし、まだよくなる予知はあると思うので、全力で戦う」

会見では、コースレコードを記録したことについて質問が出たが、この結果については、チームと共に築いたもので、うれしく、また、これまでレコードホルダーだったオリベイラ選手に、トークショーでいつも自慢されていたそうだが、今度は自分の記録が掲げられることがとてもうれしいとも語っていた。

会見後は、サポーターズシートのサイン会に参加。大変ご機嫌なロッテラー選手。チームの雰囲気も良く、クルーはレースに備えて、ピットインのシミュレーションに余念がない。それにロッテラー選手も加わるという場面も見られた。すべてのスケジュールが終わってからも、あししげくピットに通うロッテラー選手。中嶋選手もミーティングを終え、いくつか取材をこなし、午後 6 時にはサーキットを後にした。チームもトラブルなく過ごした一日で、午後 9 時半過ぎには帰路につき、予選の一日が終わった。

